



アリアケジャパン株式会社

## 2022年3月期 決算説明会資料

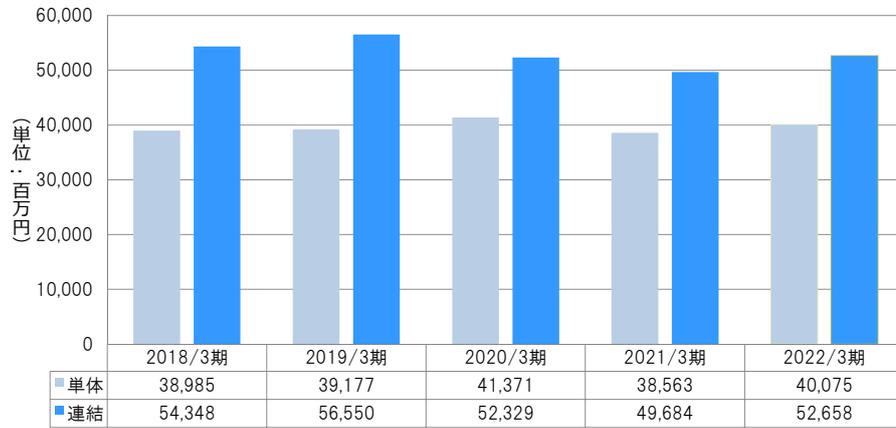
2022年5月12日 テレフォンカンファレンス  
アリアケジャパン株式会社（証券コード2815）

### 目 次

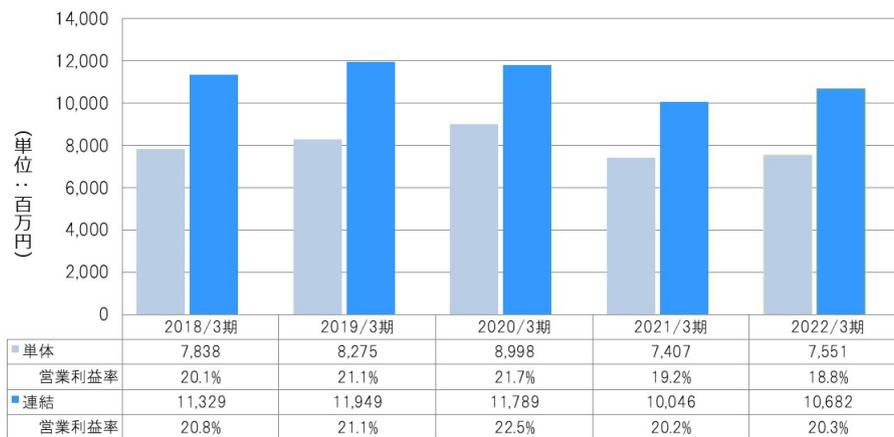
02 売上高推移（単体・連結）	12 地域別の概要
03 営業利益推移（単体・連結）	13 地域別 当期計画
04 経常利益推移（単体・連結）	14 設備投資の推移（連結・単体）
05 親会社に帰属する 当期純利益推移（単体・連結）	15 減価償却費の推移（連結・単体）
06 売上高（対前年実績）	16-17 今後の事業計画 1（連結・単体）
07 売上高（対前年実績、対計画）	18-20 今後の事業計画 2（アリアケジャパン）
08 営業利益（対前年実績）	21-27 今後の事業計画 3（海外）
09 営業利益（対前年実績、対計画）	28 アリアケグループ「世界7極体制」
10 単体業績の概要（利益変動要因）（前期比較）	29 サステナビリティへの取組
11 単体業績の概要（利益変動要因）（計画比較）	30 環境価値向上への取組

〔補足資料〕決算のポイント

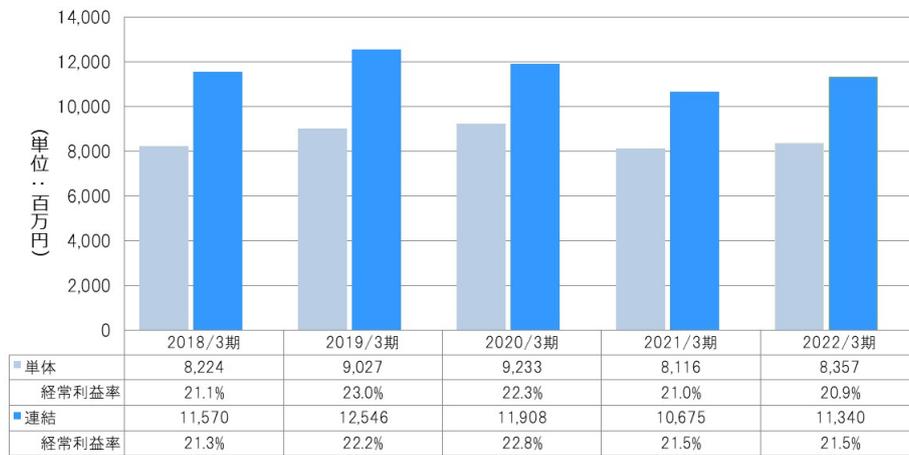
### 売上高の推移（単体・連結）



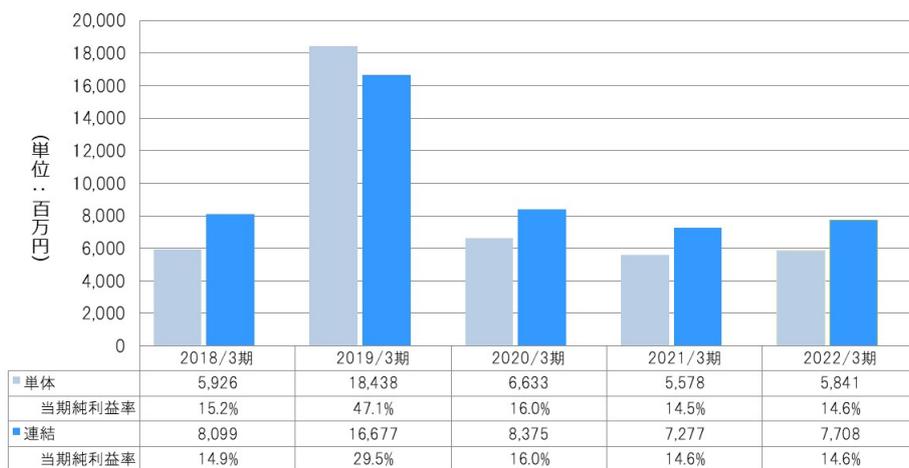
### 営業利益の推移（単体・連結）



### 経常利益の推移（単体・連結）

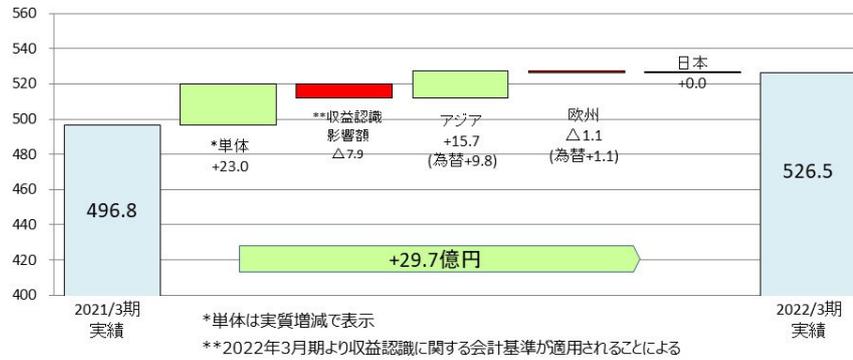


### 親会社株主に帰属する当期純利益の推移（単体・連結）



## 売上高（対前年実績） [1]

(単位：億円)



## 売上高（対前年実績、対計画）

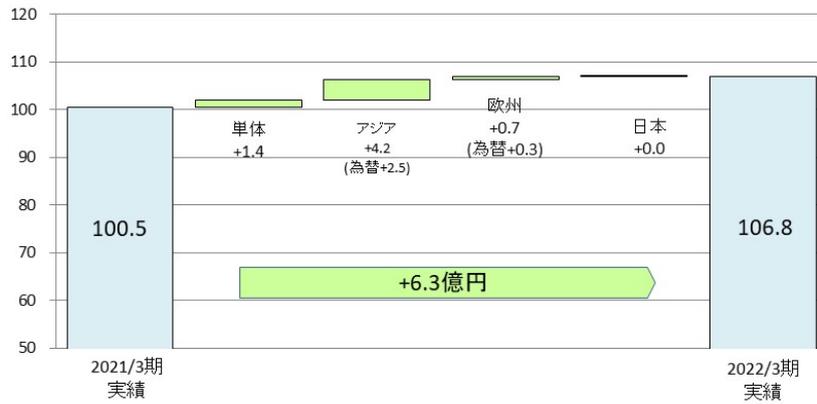
※子会社は連結調整後

(単位：億円)

	2022/3期 (A)	2021/3期 (B)	増減 (A-B)	%	為替中立	計画	
						2022/3期 (C)	増減 (A-C)
アリアケジャパン	400.7	385.6	15.1	3.9%	-	415.0	△ 14.3
子会社 計 ※	125.8	111.2	14.6	13.2%	3.3%	128.0	△ 2.2
アジア	83.3	67.6	15.7	23.3%	8.6%	80.0	3.3
欧州	39.8	40.9	△ 1.1	-2.7%	-5.4%	45.0	△ 5.2
日本	2.7	2.7	0.0	0.8%	-	3.0	△ 0.3
連結	526.5	496.8	29.7	6.0%	3.8%	543.0	△ 16.5
EUR	130.51	126.95	3.56			129.00	
人民元	18.06	15.88	2.18			16.70	
台湾ドル	4.15	3.68	0.47			3.84	
ルピア	0.0081	0.0074	0.0007			0.0076	

## 営業利益（対前年実績）

(単位：億円)



## 営業利益（対前年実績、対計画）

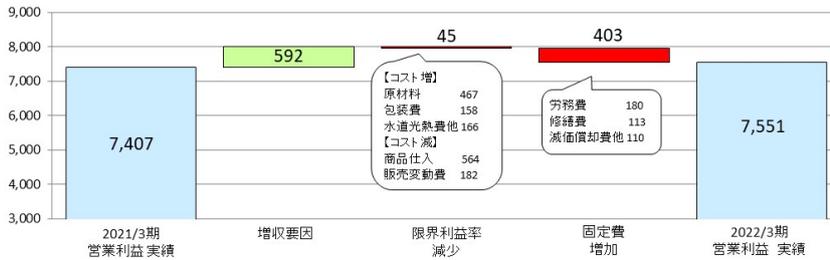
※子会社は連結調整後

(単位：億円)

	2022/3期 (A)	2021/3期 (B)	増減 (A-B)	%	為替中立	計画	
						2022/3期 (C)	増減 (A-C)
アリアケジャパン	75.5	74.1	1.4	1.9%	-	83.0	△ 7.5
子会社計※	31.3	26.4	4.9	18.6%	8.2%	35.0	△ 3.7
アジア	20.9	16.7	4.2	25.1%	10.4%	22.0	△ 1.1
欧州	10.3	9.6	0.7	7.0%	4.5%	12.0	△ 1.7
日本	0.1	0.1	0.0	0.0%	-	1.0	△ 0.9
連結	106.8	100.5	6.3	6.3%	3.7%	118.0	△ 11.2

## 【前期比較】単体業績の概要〔利益変動要因〕

■ 営業利益 7,551百万円 前年比+144百万円 (+1.9%) (単位:百万円)



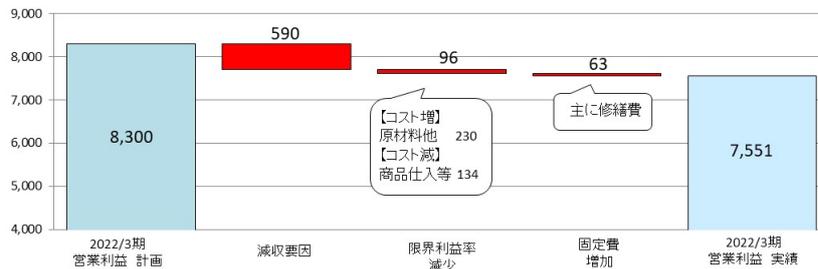
■ 経常利益 8,357百万円 前年比 +240百万円 (+3.0%)

(単位:百万円)

増減要因	金額 (百万円)
増加要因	
営業利益増加	144
為替差益	147
受取配当金他	48
減少要因	
貸倒引当金繰入	△ 63
受取利息他	△ 36
合計	240

## 【計画比較】単体業績の概要〔利益変動要因〕

■ 営業利益 7,551百万円 計画比▲749百万円 (▲9.0%) (単位:百万円)



■ 経常利益 8,357百万円 計画比▲443百万円 (▲5.0%)

(単位:百万円)

増減要因	金額 (百万円)
増加要因	
為替差益	315
受取配当金他	54
減少要因	
営業利益減少	△ 749
貸倒引当金繰入	△ 63
合計	△ 443

## 地域別の概要

### アジア

- 中国は、年初からの回復基調により増収増益、コロナ前に戻る。
- 台湾は、6月から約3ヶ月コロナ拡大が影響するも年後半から回復し通期では前年並み。
- インドネシアは、日本向け輸出、同国内販売も堅調。

### 欧州

- 外食向けは回復に向かうも、前年の産業用特需の反動により減収。一方、日本向け輸出も増え稼働率向上し増益。

## 地域別 当期計画

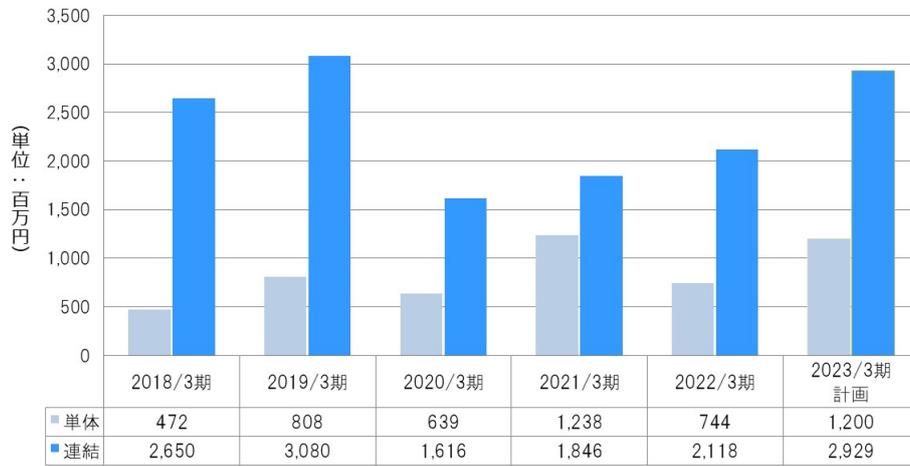
※子会社は連結調整後

(単位：億円)

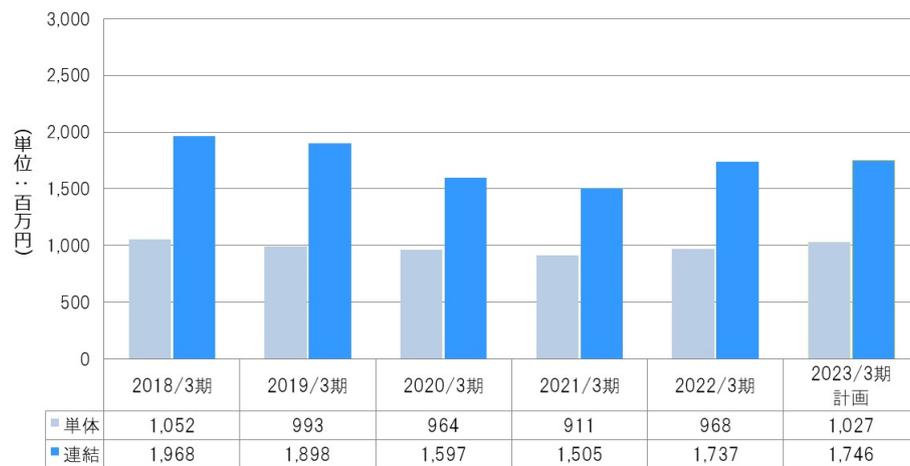
	売上高			営業利益		
	2023/3期 計画 (A)	2022/3期 実績 (B)	増減 A-B	2023/3期 計画 (A)	2022/3期 実績 (B)	増減 A-B
アリアケジャパン	420	401	19	84	76	8
子会社 計 ※	141	126	15	33	31	2
アジア	94	83	11	24	21	3
欧州	44	40	4	9	10	△ 1
日本	3	3	0	0	0	0
連結	561	527	34	117	107	10

EUR	130.00	130.51	△ 0.51
人民元	18.00	18.06	△ 0.06
台湾ドル	4.00	4.15	△ 0.15
ルピア	0.008	0.008	△ 0.000

### 設備投資の推移（連結・単体）



### 減価償却費の推移（連結・単体）



## 今後の事業計画[1] (連結・単体 概要)

### □ 連結

3年後の2025年3月期の連結売上高は632億円+を視野に入れ（海外売上高比率30%+）、営業利益率20%+確保を目指します。

持続的成長を狙える市場に対して、更なる経営資源の投入を図って参ります。

長期的には後述の販売戦略を実行し、2030年には国内500億円、海外500億円の合計1000億円の売上達成を目指します。

### □ 単体（アリアケジャパン）

国内市場での嗜好や業態の変化を読み取り、新たな製品開発(大豆や野菜ベース等)と市場開拓（流通、EC等想定B2C製品）を行い、さらなるシェア・アップを図ってまいります。

## 今後の事業計画[1] (連結・単体 中期3年計画)

(単位：億円)

		実績		計画		
		2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期
売上高	単体	386	401	420	430	440
	連結子会社	139	158	174	199	227
	連結調整	△ 28	△ 32	△ 33	△ 34	△ 35
	連結売上高	497	527	561	595	632
営業利益	単体	75	76	84	86	88
	連結子会社	26	31	33	36	41
	連結営業利益	101	107	117	122	129

## 今後の事業計画[2] (アリアケジャパン①)

### □ 中長期計画

2022年度420億円を起点に毎年度10億円の売上増を図り、2030年には、500億円の売上達成を目指しております。売上増は新規カテゴリと既存カテゴリの両方をバランスよく取組ます。

### □ 新規カテゴリの開発と拡販

新規カテゴリでは、畜産系だけでなく大豆や野菜を原料としたプラントベースの製品及び従来の業務用・加工用の枠組みを脱しB2C製品の開発と拡販を行います。健康と環境意識の観点から、プラントベースの食品が注目され、その市場規模は2035年には38兆円と言われており有望な市場です。また、B2C展開することで、顧客の販売動向や商品政策に左右されない市場を自ら造ることが可能になります。

## 今後の事業計画[2] (アリアケジャパン②)

### □ 製品開発戦略と市場の創造

競合他社に無い、差異化の製品開発によって新しい市場の創造に努力します。

### □ 差異化

- (1) 一つの既存の属性の上で、まだ競合他社が占めていない場所を埋める。
- (2) 競合他社が未だ気づいていない問題を発見し、その解決能力を向上し製品化を図る。
- (3) ニーズがあり消費者の琴線に触れる差異化こそが市場を制する。

## 今後の事業計画[2] (アリアケジャパン③)

### □ B2C戦略

新規カテゴリーのB2C新製品については、工場の足下長崎県からの販売展開を計画しております。

- (1) TVCM、インターネットなどを活用したプロモーション
- (2) マーケッターとの共創
- (3) 地元大手スーパーとの連携による販売
- (4) 長崎から福岡、九州、全国への展開
- (5) 地元スーパーから全国的大手流通への展開
- (6) 将来的に米国での展開の布石とする

## 今後の事業計画[3] (海外① ベルギー)

### □ UHTストレートブイオンによるB2C戦略

ベルギー工場内に25億円を投じ、UHT設備新設及び抽出設備増設を進行中です。11月から稼働開始の見込みです。

この設備により、100%天然の高品質のUHTストレートチキンブイオンを製造しフランス国内にて家庭用を中心に販売します。UHTストレートブイオンは、既に米国で約2000億円、スペインで約200億円、イタリアで約40億円の市場があります。人口比（フランス6500万人、イタリア6000万人、スペイン4700万人）から、フランスでは250億円の市場規模が見込めます。

拡販手段として、フランスの有名シェフの商標を使用し、最大手スーパーとの販売交渉を進行中です。チキンブイオンはフランスでは料理のベースとして幅広く使用され確実に売上に繋がると予測しています。また、家庭用だけでなく、フードサービスへの展開も併行して行います。

UHTブイオンを中心とした販売戦略により2030年には約100億円の売上を目指しております。

### 今後の事業計画[3] (海外① ベルギー)

#### □ UHTストレートブイオンの製造

UHTストレートブイオン用として、新たな抽出方法を確立しました。製品は、オールラウンドのクリアブイオンと煮込み料理に向けたクラウディブイオンの2タイプを用意します。また、副生物のストックやミートはフランス工場のスプレードライヤーで乾燥し製品化します。残渣の処理費用削減と原材料費低減により大幅な利益改善となります。



### 今後の事業計画[3] (海外②フランス)

#### □ スプレードライによるインダストリー向け粉末製品販売

欧州のブイオン、ストック調味料は粉末形態が主流になります。これまでの液体に加え新たに粉末の製造販売を行います。

当社の優位性である抽出から乾燥までの一貫生産を行うことで効率的な生産が可能です。

設備投資8億円を行い、スプレードライヤー及び建屋の建設は順調に進行しており、9月には稼働予定です。約100t/月の生産能力があり売上高は10億円/年となります。また、スプレードライをベースにしたブレンドパウダーの生産も行います。それらを合わせて2030年には現在の約2.5倍の40億円の売上を目指しております。

スプレードライヤーでは、ストックパウダー、ミートパウダーなどを乾燥し、欧州圏のインダストリー向けを中心に販売を行います。フランス工場のブイオン、ストックやベルギー工場のUHT用抽出品の副生物も原料として使用するので、市場（顧客）の用途に応じた製品の製造が可能であり、顧客のコストメリットにも貢献できると思われれます。

## 今後の事業計画[3] (海外②フランス)

FPNI フランススプレードライヤー設備工事



スプレー乾燥機の建設工事 建築及び内部のドライヤー設置も稼働に近んでいます。



メインチャンバー粉体回収部分

熱風発生機



メインチャンバー及びサイクロン

ARIAKE JAPAN CO.,LTD.

24

## 今後の事業計画[3] (海外③中国)

### □ 中国

中国の日照市の工業団地53,000㎡取得、2023年に新工場の建設及び設備施工し2024年からの操業を目指してまいります。総投資額は50～60億円、最終的な生産能力は250億円程度を想定しております。

当面は現在の主要顧客である外食、加工メーカー、CVSを中心に売上増を図ります。新工場では、消費者向け最終製品の製造が可能なラインを設置し、天然調味料をベースにした調理加工品を製造する予定です。従来の調味料原料から家庭用商品の市場を拡大し、アリアケのブランド確立を目指します。

当社の市場予測では、今後も中国市場の拡大は大いに期待でき、2026年度には100億円、2030年には250億円の売上を目指しております。

工場は中国における労務費の上昇と少子化を念頭に、これまで蓄積した経験と最新技術を基に先進的な自動化工場とし、生産性を飛躍的に向上させます。

ARIAKE JAPAN CO.,LTD.

25

### 今後の事業計画[3] (海外④台湾・インドネシア)

#### □ 台湾

台湾は既存顧客が外食中心のため、加工食品メーカー（即席麺、CVS、ベンダー、消費者向け最終製品製造メーカーなど）や健康食品メーカーへの営業強化中です。

日本式の提案営業を採用することにより、顧客要望事項の実現と顧客が気づいていない新たな関連商品の提案を行います。この事により、商品の幅を広げると同時に将来的なスプレッドライヤーや具材入充填包装機の採用を検討中です。また、技術面では日本のR&Dに台湾専用スタッフを設け、課題を共有する組織を作りました。

#### □ インドネシア

インドネシアは日本への原料供給と同国市場の販売強化中です。今後はアジア圏の商圏拡大も目指してまいります。

インドネシア国内、シンガポールなど東南アジア圏の加工食品メーカー、外食への販売が増加し、全体の30%まで成長してきました。また、新たにチキンミートパウダー（ハラル仕様）が採用され、更なる売上増に貢献しております。

より拡販を優位に進めるため、マレーシアハラルの認証取得に取り組んでおります。

### 今後の事業計画[3] (海外⑤米国)

#### □ 米国市場への再進出

米国市場には2024年以降新たな投資が可能になります。

そこで、米国への再進出を検討中です。東海岸バージニア州、ジョージア州の経済開発機構に依頼し、候補地を選出中です。

米国では主にB2C製品中心での販売展開を検討しています。

米国ではノンアニマル、プラントベースの需要が伸びており、その市場は1兆円とも言われております。現在国内で進行中のプラントベースの新規カテゴリー製品は米国での展開も視野に入れて取り組んでおります。

もう一つの柱となるのが、消費者向け最終製品（調理加工品）の製造です。

国内で培った、CVS向けビーフシチュー、カレーなどの生産技術をさらに進化させ、利便性を向上させ、かつ品質に優れた製品を製造・販売する計画です。

現在国内で開発を進めております。

## アリアケグループ「世界7極体制」



## サステナビリティへの取組

### □ サステナビリティ経営の推進

改正CGコードも踏まえ、TCFD提言を参考に、気候変動対策を含めサステナビリティへの対応を進めております。

具体的には、サステナビリティ経営戦略の策定（基本方針、ビジョン、経営方針）、サステナビリティ委員会の設置、マテリアリティ（重要課題）の特定プロセスの整備、マテリアリティの特定及び主要な取組指標KPIの設定などを行いました。

### □ KPI

気候変動への取組、事業活動と気候変動の取組の機会を考慮しKPIを設定いたしました。以下2030年度目標値です。

- ・二酸化炭素排出量（スコープ1・2）：60%削減（2020年比）
- ・新規カテゴリー製品売上比率：5%（対総売上）
- ・食品系産業廃棄物：20%削減（2021年度比）
- ・製造工場での水使用量：10%削減（2020年度比）

## 環境価値向上への取組

当社は、地球温暖化対策の一環である脱炭素に積極的に取り組み、2021年4月から国内生産工場で使用  
する全電力について再生可能エネルギーに切り替えた他、LNG気化器の蒸気式から空温式への変更、空調設  
備の省エネ改善、ボイラー排熱の有効利用などに積極的に取り組んで参りました。その結果、2021年度の九州  
第一工場及び第二工場の二酸化炭素総排出量は、2020年比約50%まで削減することができました。

さらに、2022年5月1日より新たに、自家消費型太陽光発電システム（オンサイトPPA）による再生可能エ  
ネルギー電気の使用を開始いたしました。本システムでは限られた設置スペースを有効活用するため、工場の屋根  
に加え、カーポート型の太陽光発電システムを導入致しました。発電容量合計は、2569.3kW、年間発電電  
力量は約300万kWh（一般世帯約1,010戸分）となり、これにより二酸化炭素排出量約1,360t/年間の  
削減が見込まれます。尚、本事業は、環境省の「ソーラーカーポート  
等の新たな自家消費型太陽光導入支援事業に関する優良事例」  
に選出されております。今後も、更なる省エネルギー、廃棄物からの  
エネルギー再利用や廃棄物減容化などを検討し、SDGsへの対応、  
サステナビリティ経営に継続的に努めてまいります。



- 本資料は、会社内容をご理解いただくための資料であり、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本資料に記載されている業績予想（計画）及び、将来の予測につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものです。これには為替や金利、国際情勢、市場動向や経済状況、競争環境、生産能力、将来における売上、収益性、設備投資、その他の財務指標の状況、法的、政治的、または規制上の状況、疫病や健康問題の影響など、さまざまな不確定要素が内在しており、実際の業績は異なる場合があります。当社はこうした情報の正確性または完全性を保証しません。

第44期（2021年4月1日から2022年3月31日まで）  
決算のポイント【単体】

2022年5月12日

（単位：百万円）

主要資産・負債等

総資産

	2022年3月期	2021年3月期	増減
総資産合計	107,345	103,277	4,068

流動資産

	2022年3月期	2021年3月期	増減
流動資産合計	67,060	65,625	1,435
現金及び預金	49,541	45,491	4,050
たな卸資産	6,829	5,951	878
受取手形・売掛金	7,591	7,590	2

有形固定資産

	2022年3月期	2021年3月期	増減
有形固定資産合計	11,098	11,329	△ 231
償却資産	6,990	7,250	△ 260
土地	4,047	4,047	0
建設仮勘定	61	33	29

投資等

	2022年3月期	2021年3月期	増減
投資等合計	29,131	26,274	2,857
投資有価証券	11,950	10,851	1,099
関係会社株式	12,051	12,051	0
関係会社貸付金	3,624	1,491	2,133
子会社出資金	1,089	691	398
その他	416	1,189	△ 772

資本勘定（株主資本）

	2022年3月期	2021年3月期	増減
純資産合計	97,145	93,156	3,989
資本金	7,095	7,095	0
資本剰余金	7,958	7,834	124
利益剰余金	79,420	76,030	3,390
自己株式等	△ 2,041	△ 2,101	60
評価・換算差額	4,713	4,298	415

損益計算書関係

品種別売上高

	2022年3月期	2021年3月期	増減	対前年比	摘要
売上高	40,076	38,564	1,512	103.9%	
液体スープ	2,973	2,805	168	106.0%	
液体調味料	31,755	30,538	1,216	104.0%	
粉体調味料	3,609	3,403	206	106.1%	
その他	1,739	1,818	△ 79	95.7%	

販売費及び一般管理費

	2022年3月期	2021年3月期	増減	摘要
販売費及び一般管理費	5,798	5,716	82	
(%)	14.5%	14.8%		
販売費	3,468	3,430	39	
労務費	1,089	1,063	26	
固定費	849	851	△ 3	
技術開発費	393	372	20	

営業利益

	2022年3月期	2021年3月期	増減	摘要
営業利益	7,551	7,407	144	
対売上高比 (%)	18.8%	19.2%		

営業外損益

	2022年3月期	2021年3月期	増減	摘要
営業外損益	806	709	96	
営業外収益	877	726	151	
配当金	404	397	7	
家賃収入	29	40	△ 11	
為替差益	314	167	147	
その他	129	122	8	
営業外費用	71	17	54	
貸倒引当金繰入額	63	0	63	
その他	8	17	△ 9	

設備投資・減価償却費

	設備投資					減価償却費		摘要
	単体					連結	単体	
	単体合計	第1工場	第2工場	バックセンター	その他			
第40期（2018年3月）	472	35	364	72	1	2,650	1,052	1,968
第41期（2019年3月）	808	164	319	35	291	3,080	993	1,898
第42期（2020年3月）	639	54	557	27	1	1,616	964	1,597
第43期（2021年3月）	1,238	755	463	19	1	1,846	911	1,505
第44期（2022年3月）	744	117	549	66	12	2,118	968	1,737

人員（単体）

（単位：人）

	2022年3月期	2021年3月期
男	510	493
女	116	107
計	626	600
臨時（外数）	281	305

関係会社業績（連結調整前）

		売上高		営業利益		当期利益		設備投資		減価償却費	
		2021年度	2020年度	2021年度	2020年度	2021年度	2020年度	2021年度	2020年度	2021年度	2020年度
青島有明食品有限公司	(換算レート) (@18.06)										
	千元	342,982	306,324	77,597	68,173	61,673	54,948	5,100	3,934	9,300	9,311
	百万円	6,194	4,864	1,401	1,083	1,114	873	92	62	168	148
台湾有明食品股份有限公司	(換算レート) (@4.15)										
	千元	615,271	644,105	160,542	173,628	126,744	139,412	6,216	2,278	38,663	38,168
	百万円	2,553	2,370	666	639	526	513	26	8	160	140
F.P. Natural Ingredients SAS	(換算レート) (@130.51)										
	千ユーロ	12,213	11,904	1,397	1,465	1,393	1,422	3,753	318	810	794
	百万円	1,594	1,511	182	186	182	181	490	40	106	101
Ariake Europe NV	(換算レート) (@130.51)										
	千ユーロ	16,346	15,911	1,703	1,321	3,940	3,269	5,424	3,788	1,880	971
	百万円	2,133	2,020	222	168	514	415	708	481	245	123
Henningsen Nederland BV	(換算レート) (@130.51)										
	千ユーロ	19,797	20,376	6,170	6,534	4,653	5,001	331	95	230	244
	百万円	2,575	2,587	805	830	607	635	43	12	30	31
PT. Ariake Europe Indonesia	(換算レート) (@0.0081)										
	百万ルピア	54,882	43,933	3,379	278	2,836	2,255	1,942	483	7,295	6,836
	百万円	445	325	27	2	23	17	16	4	59	51